

第15回宇宙輸送システム部会 議事要旨

1. 日時：平成26年4月30日（水） 15：00－17：00
2. 場所：内閣府宇宙戦略室 大会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
山川部会長、白坂部会長代理、緒川委員、仁藤委員、松尾委員、御正委員、薬師寺委員
 - (2) 事務局
西本宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、森宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官
4. 議事要旨
 - (1) 宇宙政策委員会第21回会合の議事概要について
事務局から資料1、資料2、資料3に基づき宇宙政策委員会第21回会合の議事概要について説明があった。
 - (2) 「平成27年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針」に対する宇宙輸送システム部会の意見について
事務局から資料4、資料5に基づき説明があった。続いて、文部科学省から資料6、JAXAから資料7に基づき「平成27年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針」に対する意見について説明があった。
その後、「平成27年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針」に対する宇宙輸送システム部会の意見について審議を行った。審議において委員から以下のような意見があった。
 - 新型基幹ロケット、将来宇宙輸送システム、基幹ロケットの高度化、射場等地上設備の更新・高度化についてどれも重要であるため、着実に進めるべき。
 - 資料5にコストオーバーランの歯止めに関するJAXAの役割を示した記述があるが、JAXAが開発において果たす全体的な役割を述べた上で、その一環としてコストオーバーランの歯止めに関する役割がある形にした方が文章として適切であるので、そのように修正を行うべき。
 - 新型基幹ロケットの開発を進める途中で、将来、他国の動向等を踏まえて、万が一新型基幹ロケットに関する仕様等を変更する必要がある場合、変更による影響を最小化する観点から、JAXAは開発管理上の工夫をすべき。
 - 宇宙輸送システムの再使用化について、チャレンジすることにより若い人材が育成されるようにすべき。
 - 低軌道領域の将来宇宙輸送システムのマルチパスアプローチに関してどの発展経路が経済合理性のあるものなのか現時点で不明であるため、再使用型ロケット実験機、エアブリージングエンジン搭載型実験機双方の検討を進めるのが

良い。このため、「平成27年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針」には、双方の検討を進めることを明記すべき。

○再使用型宇宙輸送システムの検討においては、射点等を含めて総合的に検討すべき。

本日の審議や関係府省等の意見を踏まえ、「平成27年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針」に対する宇宙輸送システム部会の意見について事務局で整理し、次回の宇宙輸送システム部会で再度審議することとなった。

以 上